

相互理解のための対面式自己紹介

岩本 豊*

Face-to-face Self-introduction for Mutual Understanding

Yutaka IWAMOTO*

A structured group encounter called face-to-face self-introduction (FFSI) is introduced. It is a method to make the students familiar with their new classmates and develops mutual understanding between them. The contents of FFSI carried out in 2013 and 2014 are given in detail. In addition, questionnaire results and impressions for FFSI are also reported.

1. はじめに

将来に対する希望を胸に入学してくる新入生たち。入学式、始業式と入学行事が続く中で、新しい仲間、環境に対する不安は常に付きまとう。そんな中、「自分の隣に座っている学生のことかわからない」、「友達はできるだろうか」という不安と、それに伴う緊張をいかにほぐしていくかは、担任にとって大切な仕事のひとつとなる。

高専には幅広い地域から様々な学生が集う。いろいろなバックグラウンドを抱えた学生たちを、どうすればいち早くクラスになじませることができるだろうか。

ホームルーム開きの恒例行事として自己紹介がある。よく行われる方法は、教壇の前へ学生が出て、そこで自分の姓名、出身中学校、趣味等を述べるというものであるが、ただでさえ緊張度の高い中、上手く話すことができない学生が多数を占める結果になることも多い。そこで筆者は、新入生の緊張度をあまり高めすぎること無く、リラックスした状態で話し、相互理解を高める方法として、平成 25 年度に 1 対 1 の対面式自己紹介を導入した。その後、1・2 年の学年団へ、ホームルーム開きの 1 つの例としてこの方法を紹介してきた。その結果、この 2 年間に 1・2 年生の 10 クラス中、各年 3 クラス、計 6 クラスで実施され、対面式自己紹介が低学年の担任を中心に浸透してきている。それを受けて対面式自己紹介に関する取り組みを公にしようと考えた次第である。

本稿では筆者が平成 25 年と平成 26 年度に担任として取り組んだ対面式自己紹介の方法と、その際実施したアンケート結果を紹介し、改善可能な点、実施に最適な時期等について検討する。

2. 実践方法

ここでは平成 25 年に新入生に対して実施した対面式自己紹介の方法を紹介する。平成 26 年に 2 年生に対して実施した内容も基本的には同じである。

2-1 事前準備

実践にあたり準備するものとしては、繰り返し時間を計ることのできるタイマー（キッチンタイマーなど）と、自己紹介用紙の 2 つである。

自己紹介用紙には学生が話題にしやすい内容をあらかじめ項目としてあげておく。例えば以下の項目などが考えられる：

- ・呼び名・ニックネーム
- ・出身地
- ・通学時間・方法（寮生は起床時間・就寝時間を書く）
- ・趣味・特技
- ・好きな教科
- ・苦手な教科
- ・好きな食べ物
- ・苦手な食べ物
- ・最近見た映画やテレビ番組
- ・最近読んだ本やマンガ
- ・将来の進路（就職・大学、どういう会社・大学か、など）
- ・この 1 年間でやってみたいこと
- ・このクラスに期待すること
- ・このクラスに貢献したいこと
- ・こんな仲間がほしい
- ・最後に一言

ここに挙げた項目は、筆者が実際に使用したものである。学生の会話、話題作りをすることが目的のため、あえてテレビやマンガに関する項目も盛り込んでいる。

これらの項目はいわば構成的グループエンカウンター ([1], [2]) でいうところの枠組みを決定するものになり、どのよう

な項目を設けるかでエクササイズの方角性がある程度決定される。したがって、実施するタイミングなどによって質問事項は変えていくべきである。例えば、年に数回実施するような場合、年度の最初は上記のような内容、試験後にお互いがどのような学習習慣を持っているのかを話題に盛り込むなら教科・勉強時間に関する内容、年度末なら1年を振り返るような内容などが考えられる。

自己紹介用紙は早めに学生へ配布しておき、実際の特別活動前に一度回収し、全員分が揃っていることと、空白が目立つ用紙がないか等、確認しておくのが望ましい。

2-2 指導例

ここでは平成25年4月12日(金)の特別活動(特活)で当時の1年4組(42名)に対して実施した内容を紹介する。尚、この時は始業式後に一度簡単な自己紹介を実施している。

(1) 実施当日朝のショートホームルーム(SHR)で、回収し自己紹介用紙を学生へ返却し、以下の内容を伝える。

「この用紙はクラスメートに見せるためのものです。今日はクラスの半分程度の人に見てもらおうことになります。自分が知られたくないこと等があれば、今消しても構いません。逆に知って欲しいことがあれば、午後の特活までに書き加えておいてください。」

(2) 特活が始まったら、今日の狙いを学生に説明する。実際の指導にあたっては以下の内容を伝えた。

「始業式の後に簡単な自己紹介をしてもらいました。私も興味深くみなさんの紹介を聞いていたのですが、前に出て話をするのが君たちに必要以上の緊張感をもたらしたのか、殆どの人が自分の名前と出身中学校名しか話せませんでしたね。そこで、今日は対面式でお互いに自己紹介をすることで、自分の周りにいる人のことを少しでも理解してもらおうと思います。ただし、これは私が君たちに無理やり友達を作れと言っているわけではありません。友達は自分で作りますよね。今日の目的は、それとはちょっと違って、お互いのことを知ることが目標です。相互理解を深めるわけです。わかりますか。」

ここではお互いを理解するための自己紹介であることを強調しておく。



写真1 実施の様子(H25.4.12)

(3) 机を向かい合わせでコの字形に並べさせる。具体的には机を挟む形で椅子を8脚×2列を廊下側と窓側に、5脚×2列を教室後ろに配置する。コの字形にしたのは、中央を荷物置場として使え、内側の学生の移動がスムーズにいくよう配慮したためである。実施風景を写真1に示す。

(4) 方法の説明を行う。

- ・1ペア2分で行う。
- ・席についたら「私は〇〇(自分の名前)です。よろしくお願ひします。」と言って、自分の用紙を相手に渡す。
- ・相手から用紙をもらったら、自分が興味も持ったことについて相手に質問する。
- ・2分経ったら、担任が終了を告げ、教室内側の学生が左へ1つ移動する。
- ・1周したら終了

(5) まとめ(アンケートの実施)。「今日は1時間以上にわたって対面式自己紹介を行ってもらいました。話が合う人、合わない人もいたでしょうが、全体的には話が弾み、おおいに盛り上がったように見受けられました。これまで話したこと無かった人とも話せているように見えたのですが、どうでしたか。相互理解は深まったでしょうか。最後にみなさんがどのような印象を持ったのかをアンケートに記入してください。」

注) ここでは特活最後にアンケートを実施たように記述したが、実際には実施時間が長くなったため、アンケートは週明けのSHRで実施した。

2-3 実施時間

今回42名のクラスで実施したため、各学生は21名の学生と話したことになる。1人当たり2分とすると、21人×2分で42分となりそうであるが、実際には導入と学生の座席移動時間が必要となり、60分強の時間を要した。

また、当初全て2分で行う予定であったが、適正な時間を探るために途中2回分だけ2分30秒で行い、学生に対するアンケート項目として活用した。

3. アンケート

ここでは筆者が平成25年度に1年4組、平成26年度に2年4組に対して実施したアンケート結果をそれぞれ紹介し、その結果を受けて、改善すべき点等について検討を加える。

3-1 アンケート結果 (H23.4.15)

平成25年度は、1年4組42名に対して4月12日(金)に対面式自己紹介を実施した。本来なら直後にアンケートを実施すべきであったが、実施時間が長くなったため、週が明けた4月15日(月)のSHRで対面式自己紹介に関するアンケートを実施した。アンケート結果を以下に示す。



図1 H25-Q1 対面式自己紹介は初めてですか？

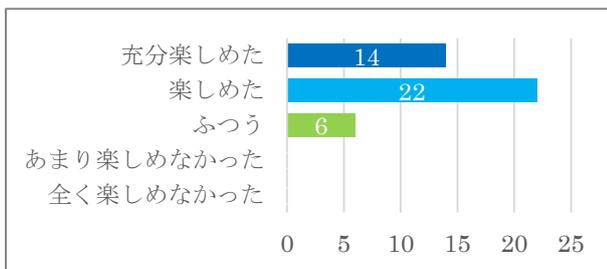


図2 H25-Q2 初対面の相手との会話はどうか？

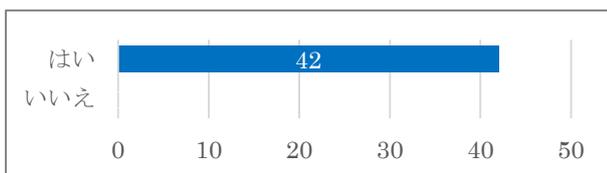


図3 H25-Q3 話が弾んだ相手はいましたか？

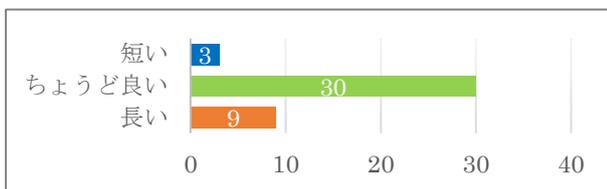


図4 H25-Q4 設定時間2分は？

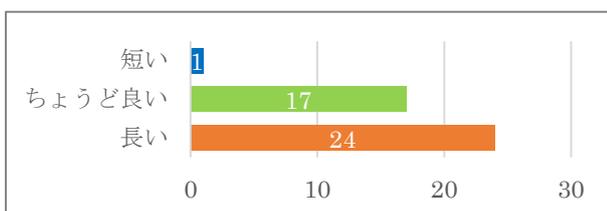


図5 H25-Q5 設定時間2分30秒は？



図6 H25-Q6 仲間に対する理解は深まりましたか？

H25-Q7. 最後に、あなたがこの対面式自己紹介に対して、どのような感想を持ったか聞かせてください。

H25-Q7 に対する回答要旨

複数回答意見

- ・楽しく会話することができた。(24)
- ・なんとか話すことができた。(2)
- ・会話が途切れてしまうことがあった。難しかった。(7)

その他

- ・はずかしくて全然話せなかった。2対2くらいでいい。
- ・他人の事について知ることのできる良い機会だった。
- ・その時はしゃべれても、その後、顔や名前をよく覚えていないのでしゃべりにくかった。
- ・時間が長かった。
- ・2分30秒の方がしゃべれた。
- ・私の声が小さくて「え？」と聞かれることが多かったので、普段から大きな声で話したいです。
- ・お互いが話さないと話が止まってしまう。
- ・事前に自己紹介の紙を書いていたので、話題ができて話しやすかった。
- ・見知らぬ人と話すことで少し気まづさが無くなったと思う。

3-2 アンケート結果 (H24.4.18)

平成26年度は、2年4組42名に対して、4月18日(金)に対面式自己紹介を行い、その直後にアンケートを実施した。アンケート結果を以下に示す。

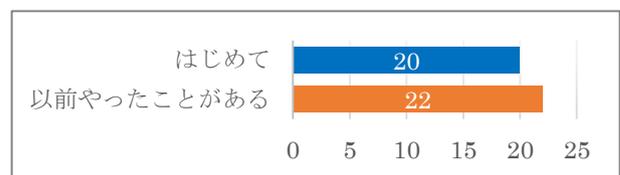


図7 H26-Q1 対面式自己紹介は初めてですか？

H26-Q2. 過去に対面式自己紹介をしたことのある人は、前回と比べて今回はどうだったでしょうか？

H26-Q2 に対する回答要旨

複数回答意見

- ・前回とあまり変わらなかった (8)

- ・前回よりも楽しく話せた (8)

その他

- ・昨年は 5 分ほどだったので、今回の 2 分でちょうど良いと思った。
- ・しゃべったことが無かった人が多数なので、少し緊張した。
- ・昨年は 1 年の終わりくらいにしたけれど、今回ははじめの方にできたので良かった。

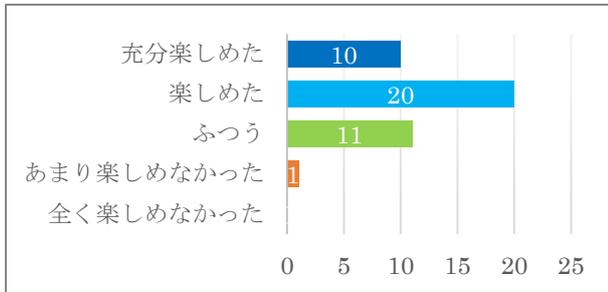


図 8 H26-Q3 今回の自己紹介は楽しめましたか？

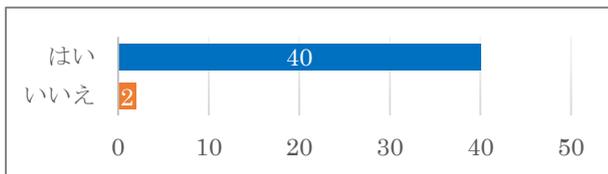


図 9 H26-Q4 話が弾んだ相手はいましたか？

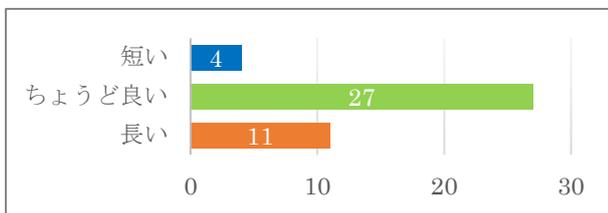


図 10 H26-Q5 設定時間 2 分は？



図 11 H26-Q6 仲間に対する理解は深まりましたか？

H26-Q7. 最後に、あなたがこの対面式自己紹介に対して、どのような感想を持ったか聞かせてください。思いのほかしゃべれた、とか、しゃべることの難しさを知った、とか、ここはこう改善できる、など、何でも構いません。

H26-Q7 に対する回答要旨

複数回答意見

- ・楽しく話すことができた。思いのほか話せた。(11)
- ・なんとか話すことができた。(2)

- ・難しかった。疲れた。(5)

- ・相手によって話せたり、話せなかったりした。(7)

- ・気まずかった。(3)

- ・自己紹介用紙であらかじめお互いの趣味とかが分かったので話しやすかった。(2)

その他

- ・話しかけるというのが苦手な僕にとって、とてもいいきっかけとなった。

- ・半分の 21 人とは話せていないので、もう一度やりたい。

- ・いろいろな人の得意なものや嫌いなものがわかった。

- ・自分と気が合う人、合わない人が分かった気がします。

3-3 比較検討

平成 25 年度に本校ではおそらく初めてとなる対面式自己紹介を実施後、毎年 1・2 年担任団へ向けて、その実施方法を紹介してきた。筆者の呼びかけに賛同していただく形で、平成 25 年度では 1 年 2 組、1 年 4 組、1 年 5 組の 3 クラス、平成 26 年度では 1 年 4 組、1 年 5 組、2 年 4 組の 3 クラスで実施されるに至った。図 12 に対面式自己紹介の経験者推移を示す。

一方、平成 25 年度に 1 年生に実施した際、以前このような自己紹介をやったことがあると答えた学生が 3 名いた。このことから、全く同じではないにせよ、同様の手法で自己紹介を試みている中学校があるということが分かる。

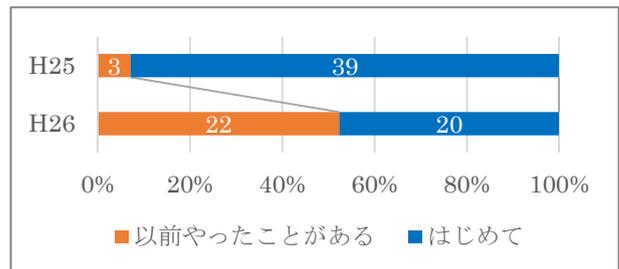


図 12 対面式自己紹介は初めてですか？

平成 26 年度においては、1 年時 (平成 25 年度) に対面式自己紹介を経験した学生数が増えていることが予想されたため、前年度と比べてどうであったかの設問を加えた (H26-Q2)。その結果、過去に経験した学生の約半数が前回よりも楽しく話せたと答えた学生数と、前回と同様であったと答えた学生数がほぼ同数となった。この結果は過去に経験を積んだことによる順応度が高まったと捉えることができる。また、平成 25 年度においては、筆者の呼びかけのタイミングもあり、前期の早い段階で実施できなかったクラスもあったようである。学生としては前期の早い段階で実施して欲しいという要望があることも見て取れる。

学生の満足度については 1 年生、2 年生共に 7 割以上の学生が楽しめたと答えている。学生の満足度推移を図 13 に示す。しかしながら、2 年生に実施した際は、H26-Q7 に見られるように各学生が自分の方向性を見出し、嗜好差がハッキリと出始めていることには注意が必要である。

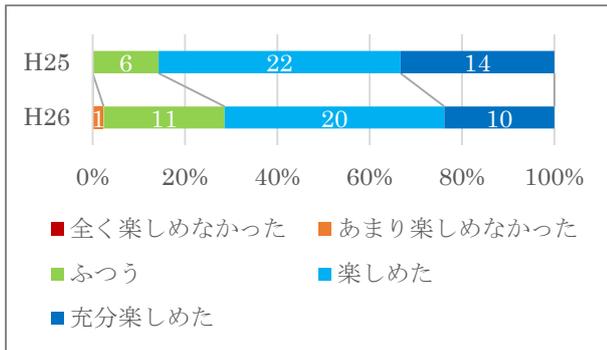


図 13 今回の自己紹介は楽しめましたか？

仲間に対する理解が深まったかの問いには、各年度とも 6 割以上の学生が深まったと答えており、相互理解に向けては一定の成果を上げたと考えられる。図 14 に相互理解への貢献度推移を示す。

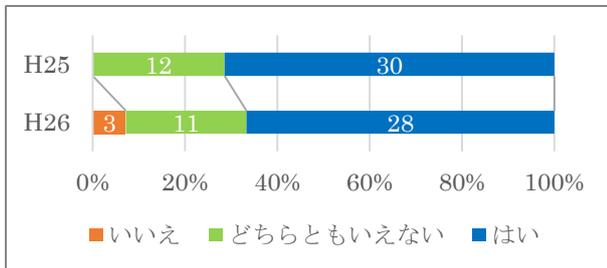


図 14 仲間に対する理解は深まりましたか？

実施時間については 1 人あたり 2 分程度がもっとも適しているようであった (H25-Q5, H25-Q6, H26-Q5)。ただし、2 分で行う場合、総時間が 60 分を超える可能性もあるため、もう少し短くすることも考えるべきであった。

各年度の学生による感想 (H25-Q7, H26-Q7) からは、このエクササイズを通して、他者を知ると同時に、自分の事を知ることができた様子が見て取れる。ふれあいと自己発見を促進するのが構成的グループエンカウターの目的である ([2]) から、この方法がそのエクササイズとして好適であったことが分かる。

その他、2 対 2 で実施したいという意見も出ており、これについては次回実施時に検討してみたいと考えている。

4. まとめ

本稿では新居浜高専におけるホームルーム開きの実践方法として、対面式自己紹介の実施方法およびそのアンケート結果を紹介した。ここまで見てきたように、この方法は新年度、特に新入生に対して、緊張を解きほぐし、クラスに対する順応度を高める方法として有効であることがわかる。また、新年度の早い段階で、このような形の自己紹介を実施することは、高専の学生に対して構成的グループエンカウターを導入するきっかけになるであろう。今回の取り組みが各担任のクラス運営、特にホームルーム開きのヒントになれば幸いである。

参考文献

- [1] 國分康孝監修 (1991) 『エンカウターで学級が変わる高等学校編』 図書文化社
- [2] 國分康孝・片野智治 (2001) 『構成的グループエンカウターの原理と進め方』 誠信書房

